

事例番号:360260

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 11 週 4 日 - 収縮期血圧 140mmHg 以上

妊娠 30 週 3 日 血圧 161/99mmHg、両眼ともに見にくい、頭痛あり

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 31 週 1 日

18 時頃 - 下腹部痛あり

23:40 外出先で性器出血あり、救急搬送で当該分娩機関入院

腹部板状硬、超音波断層法で胎児心拍数 60 拍/分、外出血あり

#### 4) 分娩経過

妊娠 31 週 2 日

0:10 常位胎盤早期剥離の診断で帝王切開で児娩出、子宮溢血所見あり

胎児付属物所見 胎盤母体面の広範囲に凝血塊の付着あり、胎盤病理組織学  
検査で胎盤後血腫

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数 31 週 2 日

(2) 出生時体重:1500g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.95、BE -19.7mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、胸骨圧迫、気管挿管、アドレナリン注射液投

与

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 30 日 頭部 CT で大脳基底核・視床の領域は高吸収域を認め、低酸素性  
虚血性脳症の所見

**6) 診療体制等に関する情報**

〈搬送元分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名、小児科 1 名、麻酔科医 2 名、研修医 1 名

看護スタッフ:助産師 2 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症によ  
って低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考える。

(2) 妊娠高血圧症候群が常位胎盤早期剥離の関連因子である可能性がある。

(3) 常位胎盤早期剥離の発症時期を特定することは困難であるが、妊娠 31 週 1  
日 18 時頃から 23 時頃の可能性がある。

**3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)**

**1) 妊娠経過**

(1) 妊娠 29 週 6 日までの管理は一般的である。

(2) 妊娠 30 週 3 日、眼が見えにくい、頭痛、腹痛あり、2 日前からふらつき、嘔気  
ありとの主訴で受診した際の対応(血圧測定、超音波断層法実施、内診実施、

鎮痛薬投与)は一般的であるが、血圧 161/99mmHg の高血圧が認められる状況で妊娠 31 週 4 日に妊婦健診予定としたことは一般的ではない。

## 2) 分娩経過

- (1) 紹介元分娩機関における、妊産婦からの電話連絡への対応(当該分娩機関へ対応要請、妊産婦へ救急車要請指示と救急隊へ当該分娩機関への搬送を指示)は適確である。
- (2) 当該分娩機関における入院時の対応(超音波断層法による胎児心拍数と胎盤の確認)は一般的である。
- (3) 妊産婦の症状(苦悶様の表情、腹部板状硬、明らかな外出血)および超音波断層法所見(胎児徐脈、胎盤の肥厚)より常位胎盤早期剥離と診断し、帝王切開を決定したことは適確である。
- (4) 帝王切開決定から 30 分後に児を娩出したことは一般的である。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (6) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管、アドレナリン注射液投与)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 紹介元分娩機関

妊娠高血圧症候群の管理については、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2023」に即して実施することが望まれる。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 2) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

#### (1) 紹介元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。